

平成 30 年度研究プロジェクト計画概要

研究種別	■自主研究 15	公益目的事業 19
主査名	青木 亮 東京経済大学経営学部教授	
研究テーマ	過疎地交通の新展開と地域コミュニティへのインパクト	
<p>過疎地における交通手段の確保は、少子高齢化と人口減少が進展する中で、以前にも増して深刻な政策課題となりつつある。一方で、公共交通空白地有償運送や貨客混載といった新しい方策は、近年の法改正等で法制度上の位置づけが明確になったことで、いよいよ全国的な展開が見られるようになった。</p> <p>本研究では、こうした過疎地交通の新展開を、地域コミュニティへのインパクトの分析に重点を置きつつ、人口減少が進む近畿地方北部（兵庫県や京都府の日本海側）などで調査する。公共交通空白地有償運送に関しては、社会学の知見をも活用し、住民からなるボランティア・ドライバーの活動や組織化を中心に現地調査を行う予定である。貨客混載に関しては、地元農産品の集荷・出荷や宅配サービスの利便性向上等、公共旅客交通の非利用者に与えるインパクトについても調査することで、沿線の地域コミュニティ全般に与える影響について考察したい。このような過疎地交通の新展開を支えるのは、情報技術の発展と活用であると考えられる。近年北欧を中心に話題となっている MaaS(Mobility as a Service)が、わが国の交通サービスに及ぼしうるインパクトについても考察を進めたい。</p> <p>現地調査等の成果は、年3回程度を予定するプロジェクトの研究会で報告と討議を行い、研究を深化させることを予定している。</p>		